

ミツキ

膏藥用、又以葉陰乾和油傳小兒頭面草瘡、一種有葉無鋸齒及皺文者、

〔和漢三才圖會八十三〕美豆木喬木 正字未詳、或用椹字亦俗也、

按、美豆木高者二三丈、葉似梅嫌木葉、而微厚、冬凋、花似藤花而黃色、

一種出於土佐山中、高一二丈、葉似粉團花葉而小、正月開黃花、攢簇下垂、結子赤色、呼名土佐美豆木、

大空

〔和漢三才圖會八十四〕大空獨空

本綱大空生山谷中、小樹其葉似桐葉而不尖、深綠而皺文、其根皮赤色虛軟、山中采作末善有和油塗髮殺蠅虱極妙、又搗葉篩疏圍中殺虫、

〔重修本草綱目啓蒙二十〕大空 詳ナラズ 一名苦虱圖

增、古說ニウリノ木ニ充ツ、一名オニウリ阿州ヤマギリ、ウリギ共同上深山ニ自生ス、枝葉繁茂シ

テ高サ丈許ニ及ブ、春新葉ヲ生ズ、葉ハ六七寸許ニシテ、桐ノ葉ニ似テ五尖アリ、又木芙蓉ノ葉ニ

似テ黒ミアリ、四五月葉間ニ花ヲ生ズ、蕾ノ長サ一寸許、幅一分許ニシテ俯テ生ズ、開ケバ五瓣ノ

白花ナリ、コノ花ヲ切レバ瓜ノ香アリ、故ニ名ク、

石楠

〔新撰字鏡〕石楠草志麻木又云

〔倭名類聚抄二十〕石楠草 本草云、石楠草楠音南、和名止比良乃

〔箋注倭名類聚抄十〕千金翼方證類本草下品作石楠、本草和名作石楠草略 中 佐久奈无佐、見拾遺

集物名歌、本草作石楠、可知石楠之俗字、南字从木、遂與榎楠字混、

〔伊呂波字類抄止〕石楠草トヒラノキ

〔下學集下〕石楠華唐人詩云、不知青嶂

〔東雅十六〕石楠草トヒラノキ 倭名抄に本草を引て、石楠草トヒラノキ、俗にサクナムサといふ

と見えたり、トヒラの義不詳、サクナムサは其字の音を呼ぶ也、藻鹽ノキには、石楠草としるして、ト